

(参考)家畜の遠隔診療(産業動物獣医療の効率化と技術継承)

- ・ 離島等の地理的要因により、獣医師の頻繁な診療が困難な地域が存在。さらに、家畜診療所の統合等による往診距離の長距離化等を原因とし、診療効率の低い地域が発生(獣医師の勤務時間の約3割が移動)。
- ⇒ 農林水産省では、家畜の遠隔診療に関する考え方の通知の発出やモデル事業の支援を実施。

事例1：獣医師及び農家間

離島農家における子牛の下痢症の予後確認(脱水状況や糞尿の状態)をビデオ通話で実施、往診の要否を判断



脱水状況の確認



遠隔地の獣医師がビデオ通話で確認



糞の性状確認

事例2：獣医師間(V to V事例(V:獣医師(veterinarian)))

農家が獣医師に動画を送付。若手獣医師がグループSNSでベテラン獣医師と同時共有・相談

- ⇒ 農家は早期の応急措置が可能。心理的不安が解消。
- ⇒ 獣医師は若手育成、組織的な知見集約が可能。



事例動画：

離島の農場と獣医師を結ぶ遠隔診療



～西表島・石垣島・沖縄本島～

<https://www.youtube.com/watch?v=TqTmrKI9G9o>

獣医師と牧場の距離を克服



～くろべ牧場まきばの風 遠隔診療～

https://www.youtube.com/watch?v=XtYR1N_HfdU

事例集：



<https://www.maff.go.jp/j/syoutan/tikusui/vetkakuho.html#enkaku>

食料・農業・農村基本計画(令和7年4月11日閣議決定)より抜粋

診療効率の向上や産業動物獣医師の確保により地域の獣医療提供体制を整備する必要があり、デジタル技術を活用した遠隔診療を推進する

cf. 愛玩動物については「愛玩動物におけるオンライン診療の適切な実施に関する指針(令和6年12月27日付け6消安第5557号)」を参照ください

(https://www.maff.go.jp/j/syoutan/tikusui/zyui/attach/pdf/pet_telehealth-1.pdf)